

インド金融政策（2024年2月）

年半ば以降の利下げ開始と、7%近辺の高成長維持が見込まれる

2024年2月9日

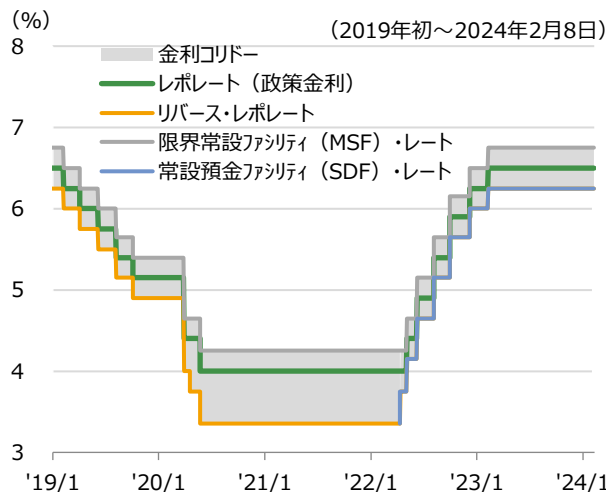
高成長持続への自信もあり、利下げを急がない姿勢を鮮明に

インド準備銀行（中央銀行）は2月8日（現地）に終了した金融政策決定会合で、市場予想通り政策金利のレポレート¹を6.5%に据え置きました【図1】。市場では、流動性がややタイトな状況に鑑みて、中銀が声明文で「金融緩和の解除に引き続き焦点をあてる」との文言を削除し、年前半の利下げのための環境作りを期待する向きがありました。しかし、この文言は踏襲され、さらに中銀総裁はインフレ率がまだ目標値の4%まで低下していないと強調するなど、年前半の早期利下げ期待はけん制されました。

ただ、中銀はインフレ抑制に対して自信を示しました。消費者物価指数の前年同期比の見通しに関して、7-9月期には+4.0%へ1-6月期の+5.0%から低下すると見込み、7-9月期に利下げの条件が整うとの見方が示されました。6月から始まる季節風（モンスーン）による雨期の降雨量を確認し、インフレが再燃しないことをより確実にする考えが窺え、経済・金融市場の安定にポジティブと考えられます。

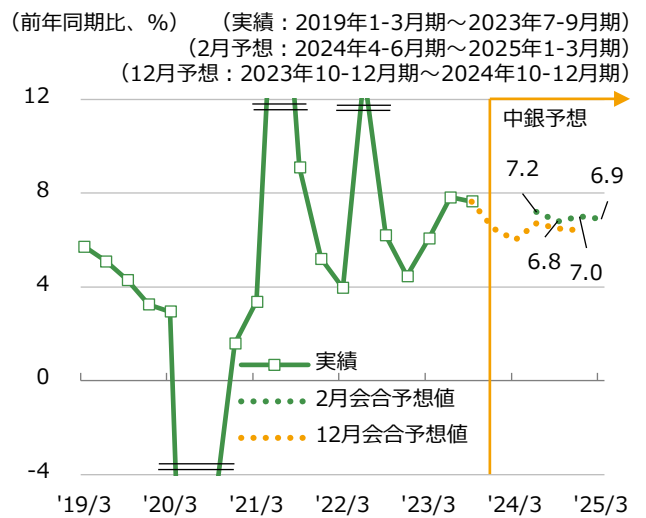
他方、中銀は景気見通しを顕著に引き上げ、24年4-6月期～25年1-3月期の実質GDP成長率が前年同期比+7.0%近辺の高水準で安定的に推移すると見込んでいます【図2】。持続的な政府支出に加え、民間投資の加速を受け、インフラ等の投資活動の見通しは明るく、また銀行と企業の健全なバランスシートを背景に、製造業の持続的な収益性や、サービス業の底堅さなども期待されています。今後は、高成長持続と年半ば以降の利下げなどへの期待が、株式市場の好材料になると言えそうです。

図1 主要政策金利および金利コリドー



※金利コリドーとは、銀行間オーバーナイト金利の誘導目標レンジ。中銀は22年4月8日にコリドーの下限を変更。(出所) ブルームバーク

図2 実質GDP成長率



(出所) ブルームバーク、インド準備銀行

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。